

今月のことば

世のなか 安穩なれ 仏法 ひろまれ

(親鸞聖人)

龍谷大学非常勤講師
小池 秀章 こいけ ひであき

穩おだやかでない集まりがあった時、私たちは何を考えるでしょう。おそらく、「あの人さえいなくなったら」と、和を乱している人を排除しようと思うのではないでしょうか。穩やかな集まりにする為に、邪魔者を排除する。普通のように、何かおかしい気もします。

親鸞聖人は、お手紙の中で、「世のなか安穩あんゑんなれ、仏法ぶつぽうひろまれ、と思われのがよいと思います」と述べておられますが、その前提として、「自らの往生おうちやうが間違いないと思う人は」という言葉が添えられています。「自らの往生が間違いないと思う人」とは、「自らの生きる方向が、浄土じやうど(すべてのものが光り輝く世界)に定まっている人」と受け取ったらいと思います。

生きる方向が、すべてのものが光り輝く世界(浄土)に定まっている人が、安穩な世界を願うと、「安穩な世界にする為に、邪魔者は消せ」という発想になってしまいうこともあるのです。お互いにとって都合の悪いものを、排除しようという方向には、安穩な世界は開けてきません。

私たちは、常々、自分にとって都合のいい人が悪い人か、敵か味方か、という見方をしてしまっているながら、そのことに気づいていません。「世のなか安穩なれ」の後に、「仏法ひろまれ」という言葉があるのは、仏法がひろまることによって、自己中心にしか見ることの出来ない愚かさ、気づかされるのが大切だということを、示すものだと思います。

仏さまのみ教えによって、お浄土へと導かれる中で、「世のなか安穩なれ 仏法ひろまれ」と願いながら生きていく。そこに、世の中が安穩になる方向が、見えてくるのではないのでしょうか。

合掌